安曇野市文化振興計画策定専門委員会　会　議　概　要

1　協議会名　　平成21年度第1回安曇野市文化振興計画策定専門委員会
2　日　　時　　平成21年８月19日　午後1時30分から午後3時30分まで
3　会　　場　　安曇野市穂高交流学習センター“みらい”地域学習室
4　出席者　　笹本委員長、倉石委員、薩摩委員、笠原委員、金井委員
5　市側出席者　望月教育長、大内教育次長、北條文化課課長、上條文化振興係長、那須野文化財保護係長、財津文化振興係主査、三澤文化振興係主査
6　公開・非公開の別　　公開
7　傍聴人　0人　　記者　1人
8　会議概要作成年月日　平成21年9月7日

協　議　事　項　等

1　会議の概要
（1）　開　　会　（北條課長）
（2）　委員の委嘱
望月教育長より委嘱書交付
（3）　教育長挨拶
（4）　委員紹介
（5）　役員選出(委員長)
委員長は笹本正治氏に決定。
（6）　協議事項
（7）　閉　　会　（北條課長）

2　協議概要
(1)　安曇野市文化振興計画策定の概要について
事務局【資料内容説明】
委員長・新しい方策を示すために、まずは「文化」の認識をあらためて行う。一般的な概念にとらわれず、安曇野市の文化を確認し、文化振興策を示したい。施設の統廃合については、文化の範囲と認識のズレをまとめ、学術的な見地から大鉈を振るいたい。市民委員は、それぞれの団体の代表者ではなく、そこから距離を置いた立場をとってもらい、決めたことを進めていくリーダーになってもらう。専門委員は、さらに距離を置いて専門的な立場から考えて欲しい。安曇野市独自の良いところ、悪いところを認識し、市民がよりよい暮らしを送れるよう提言していきたい。
委員・・文化とは地域性であり、地域の固有のものを大切にするのは良いこと。地域に残る文化によって、コミュニティを再生する。これは50年、100年先を見据えたものを考えなければならない。東京と同じものを移植するというのは愚の骨頂だ。
委員・・生活者の視線を大切にしたい。風土が文化を作り、文化が風土を作る。
市民の意識をどう変えていくか、新しく移住する人たちの意見の認識も必要。市民に我慢を強いることも必要となるかもしれない。
委員長・観光客の方ばかり見ている地域にさみしさを感じる。そのような状況に陥ってはならない。住民が生き生きと暮らしていける手法を考えていきたい。安曇野市にとっての文化とは何かというような、地域的な文化を生かしていかねばならない。
委員・・「美術館・博物館」は文化の拠点となる。観光客向けでなく、市民にとっての拠点となる場所が欲しい。そこに観光客が来ても良い。施設を使う側の意見・建築家の意見を聞くだけでは良いものはできない。市民委員がそのような意見を反映しているとすれば、専門委員はそこから距離を置いて提言していきたい。
委員長・安曇野市に一体感がない。むしろ、違う文化ですらあった地域であり、この計画を通じて一つの文化が出来上がってくるのではないか。
委員・・地域の固有性を考えると同時に、流動性を生かしていく必要がある。
学芸員という職の人々が安曇野にもいる。人材的な資源を大切にしていく提言が

必要。

委員長・文化的に向上するために「学芸員」を増やす提言をする必要があるかもしれない。一方で、「学芸員」が文化について特権階級となっている。これは改善していかねばならない。博物館の統廃合に関わると、人材の問題になってくる。「学芸員」にこだわることは無く、地域の文化を発信していく人材への提言も必要。

(2)　文化施設・文化活動の現状と課題について

事務局【資料内容説明】

委員長・多くの施設があるが「安曇野市」らしさを示すものは無く、旧町村域を出ていない。安曇野市が誇るものはなのか。養蚕を例に挙げれば、これを民俗面からまとめると、国指定の文化財にまでになりうる。このようなことは新しい視点を提言することになる。

委員・・古くから寺社・道祖神が安曇野にある。これらの信仰も対象にしていかねばならない。地域の大切なものを認め、意識を高めていける中心となるものを見つける必要がある。

委員・・既に多くの施設がある。再整理すれば面白いものが出てくるはず。施設外のものをどのように把握していくか、50年、100年の計のとっかかりとなるものにしなければならない。予想以上にいろんなものがある。7年の方策を長期のものに変えていく提言を。

委員長・安曇野の文化は「水」の文化。ただし、三郷は「水の無い」文化。多様な文化をもつことによって安曇野は豊かになった。「これが安曇野です」という特色を出していく。

委員・・地域名だけでは良くわからなかったものが、鮭や養蚕といった具体的な話があると、急に親近感がわく。時代が変わると地域性が薄れていくと思われるが、このようなことを取り上げていくと、地区のアイデンティティを高められる。
文化振興計画はエコミュージアムプランに通じている。このような中で、２０代や３０代の若い市民が関われ、それが長期の文化振興策に通じていく。市の観光計画へも提言できるものとなりうる。

委員・・この計画は、合併によるビルドアンドスクラップの方策であろう。文化をキーに市民をまとめる、求心力のある施設を作る必要がある。長期的に文化事業を担える専門性の高い人材が必要。足元にあるものを見つめなおす作業の中で人材が育つ、このように人を育てていく提言が必要。

委員長・集落レベルのコミュニティが元気な地域となる必要性がある。防災的な意味においても必要であり、文化面だけでなく、地域に特化した方策となるようにしたい。市の若手の職員の意見を聞き反映させていくことも必要と思われる。
博物館の展示においても提言を行い、手法を教えていく必要がある。

(3)　その他

事務局・次回は市内の施設を見ていただきたい。時間の都合上、事務局でここは見て欲しいという所を選ぶ。

委員長・専門委員には安曇野のファンになって欲しい。良い計画を作っていきたい。